

鳥博セミナー

「日本列島の鳥の起源と進化 —DNAの研究でわかった鳥たちの歴史—」



メグロ



ルリカケス

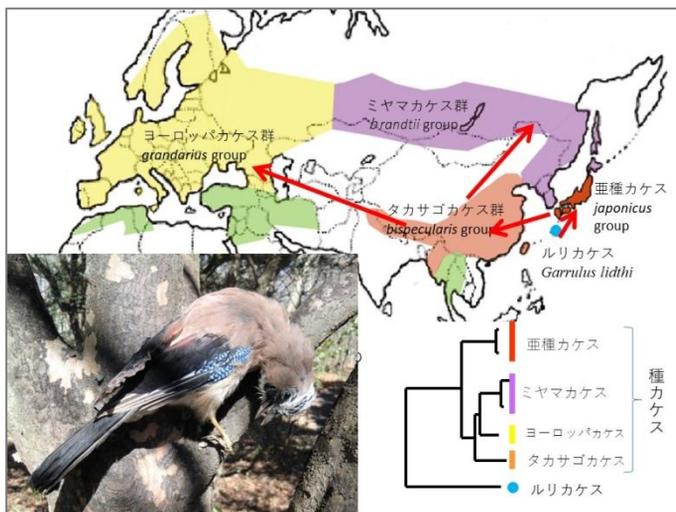


カヤクグリ

ある地域に生息する生物種の構成を「生物相」と呼び、日本に生息する鳥の種の構成を「日本の鳥類相」と呼びます。その特徴は日本列島の地史と深い関係があり、DNAの研究によってその歴史が次第に明らかになりつつあります。今回は、日本の鳥類相の成り立ちについて最新の研究が示唆する姿をお話したいと思います。

鳥の博物館では開館30周年特別企画として、特別展示「日本の鳥」が開催されています。日本産鳥類の標本351点が展示されており、その中にはメグロやルリカケスなどの8種の日本固有種（世界で日本にだけ分布する種）や、カヤクグリなどの日本周辺にしか分布しない鳥の標本も含まれます。また、パネル展示で、日本固有の鳥の起源についても紹介されています。

こうした固有種の存在は島国である日本の大きな特徴です。種の分け方や分布の定義の違いによってその種数は20種前後とされることもあります。日本の鳥類相は、固有種が多いという島国の特徴だけでなく、島国の割には種数が比較的多いという大陸的な特徴も併せ持つユニークなものです。これは、氷河期に一時的に大陸と地続きになったことの影響によるものです。近年のDNA研究の成果から見ても、その世界的に稀な特徴がより際立ってきています。これに加えて、日本列島で種分化した鳥が大陸に進出することで、日本列島が種多様性の起源地として自然的に重要な役割を果たしてきたという新しい視点についてもお話します。



日本列島起源が示唆されるカケスの分布と系統樹

図のようにカケスはユーラシア大陸に広く分布するが、ミトコンドリアDNAの系統樹は本州以南に分布する亜種カケス（写真）が種の起源になったことを示唆する。矢印は系統樹が示唆する分布拡大の方向を示す。

演者執筆の参考文献

生物の科学 遺伝2020年2月号、野鳥 2018年11月号、海洋と生物2018年2月号、野鳥 2012年7月号、BIRDER 2011年5月号

● 講師プロフィール

西海 功（にしうみ いさお）さん

1967年神戸生まれ。博士（理学）京都大学。国立科学博物館動物研究部研究主幹。九州大学大学院地球社会統合科学府客員教授。日本産およびアジア産鳥類のDNAバーコーディングを山階鳥類研究所等の国内外の研究機関と協力して進めている。日本鳥学会前会長。日本鳥類目録編集委員長。

